

自然と文化科 活動記録 (研究部共通講座)

日時	2024年8月2日(金) 10:00~12:00	担当者
場所	福島区民センター・ホール : 午前 研究部共通講座 : 午後 社会貢献委員会はドングリ工作	文 : 藤川 宗昭 写真: 川井むつ子
備考	参加者数 1班×18名 2班×20名 3班×16名 4班×13名	合計67名

1. 講演のテーマ: チョウと植物との関わり
2. 講演者名: 森林インストラクター 清水孝之先生
3. 講演要旨:

神戸・六甲山の「樹木ハンドブック」「草花ハンドブック」でお馴染みの清水孝之先生の「チョウと植物との関わり」の講義を聞いた。

(1) 蝶と蛾の区分について

昆虫綱チョウ目(鱗翅目)21上科のうち、アゲハチョウ上科、セセリチョウ上科、シャクガモドキ上科の3上科が「チョウ」に分類される(それ以外の18上科は「ガ」)。

日本のチョウの種類は約250種(神戸市内は80種)、ガは6000種以上。

チョウとガの外見上の顕著な違いは成虫の触覚の形状にみられる。

- ・チョウの触覚は細ながく、まっすぐに伸び、先端が棒状にふくらむ。
- ・ガの触覚は先が細くなるか、櫛歯状になる。

(2) チョウの特徴

チョウは完全変態(卵→幼虫→蛹→成虫)。年間の世代交代数は多い種類では数回。

・幼虫はほとんどが植物食で種類によって食べる草(食草)が決まっている。神戸産のチョウでは唯一ゴイシシジミが動物食(幼虫はササコナフキツノアブラムシなどを捕食、成虫はササコナフキツノアブラムシの分泌液を吸う。)

母チョウがそれぞれの種の産卵する食草を探せるのは、前脚の先端にある「ふ節」部分に化学感覚子があり、ドラミングして植物に含まれる化合物を認識しているからといわれる。

- ・蛹の形態は垂蛹と帯蛹(胸に帯糸をつけて体を上向にする)に大別される。
- ・成虫の4枚の翅は鱗粉や毛におおわれていて模様や色(構造色)が作られている。
- ・成虫の口はストロー状に細長く伸びており、口吻と呼ばれる。口吻の形状は中空ではなく、割りばし状で中央に溝があり、表面張力の力で、その溝に沿って蜜などの液体が体内に運ばれる。
- ・成虫のオスの婚活は昼間メスを求めて飛び回り、メスを効率的に見つけるために蝶道、占有行動、ヒルトッピングなどいろいろな行動を行う。

(3) アゲハチョウの仲間とツツジ属の特別な関係

・アゲハチョウの口吻は長く、花の蜜ある脂肪の最下部まで届き吸蜜できる。また脚が長く前に突き出たつつじの雄しべや雌しべに邪魔されることなく、花被の上に止まれる。

・ツツジの花被の上側の裂片に模様(蜜標)があり、蜜のある場所のシグナルを昆虫に伝えている。蜜標のある花被裂片の内側に細い溝があり、アゲハチョウの口吻が蜜のある子房最下部までスムーズに挿入できる。

4. 所感:

チョウの完全変態の様子を、孵化、幼虫の脱皮、前蛹、蛹化、羽化など各段階の貴重な動画で説明を受け大変感動しました。

